

# 奥波見通信 2000

平成12年9月発行

発行人

京都府立大学／三橋研究室&  
人間環境学部・環境デザイン学科  
生活デザイン専攻2回生

## はじめに

7月、私たちは生活デザイン演習という授業で奥波見のデザインサーベイを行いました。奥波見のみなさんにお世話になるのはこれで3回目になり、すっかり顔なじみになっている学生もいました。毎年夏になると押しかけてくる私たち、いやな顔もせずおつき合いくださるみなさんのおかげで、今年も実りある体験を行うことができました。何度来ても、奥波見の生活には新しい発見があります。ここでは2回生が中心になって行った調査の様子をお伝えしたいと思います。

## 山仕事班 金森美加 中澤理絵 宮本典子 辻みどり（院1） 村上幸恵（4回）

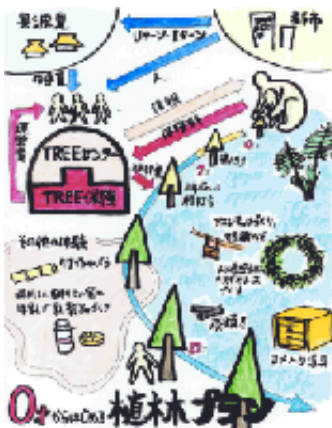
私たちは奥波見の山仕事のすばらしさを発見するべく調査を行いました。まず、岩城元さん・妙子さんに植林地に案内していただき、実際に枝打ちや草刈りを体験しました。（かえって足手まといだった気もしますが・・・）そして田中嘉久芳さん・百合子さんには、木材の切り出しの様子を見せていただきました。また、山崎誠吾さんには、昔行われていた炭焼きについてお話をうかがうことができました。そうして調査を続けるうちに、私たちは、現在の山の状況は必ずしも理想的なものではないことを知りました。そんな現状を考えに入れながら、どんな解決策があるだろう？と話し合ってみました。

### <雑木林と炭焼き>

4～50年前までは、農家の現金収入の手段として炭焼きが盛んに行われていました。そのため、雑木林は適度に伐採され、木の実や山菜を取りに入るのも容易にできました。しかし、電気・ガスの普及によって炭焼きは行われなくなり、必然的に山に入ることが減ってしまい、現在では人の出入りが難しい荒れた状態になってしまいました。

### <植林地>

戦後は木材の需要が多くあり、奥波見でも林業が盛んに行われました。しかし、輸入木材の普及や住宅の工業化におされ、需要は激減し、人手不足に陥っていきました。その結果、植林地は荒れ、雪で折れた木もそのまま放っておかれているような現状です。そこで私たちが考えたのは「0才からはじめる植林」で、都会に住む人が自分の子供を育てるのと同様進行で木を育てていくというプランです。



(はりきって山に入るところ)

## 奥波見の水班 中野陽子 西村有美 羽切聖美 山岡由佳 (3回)

奥波見は自然が豊かなところなので、お水もおいしいだろう！ということで、私たちは奥波見の水について調査しました。奥波見では現在、「大口の水源地」というところから市の水道が引かれています。市の水道が整備される前、シモ（手前の集落）の人たちは「新宮の水源地」を共同で利用し、各家庭にも縦穴の井戸があったようです。オクゴ（奥の集落）の人たちは各家庭の縦穴・横穴の井戸や共同の水場を利用していたそうです。私たちはこのオクゴの井戸について詳しく調査しました。

### 奥波見の水班 中野陽子 西村有美 羽切聖美 山岡由佳 (3回)

奥波見は自然が豊かなところなので、お水もおいしいだろう！ということで、私たちは奥波見の水について調査しました。奥波見では現在、「大口の水源地」というところから市の水道が引かれています。市の水道が整備される前、シモ（手前の集落）の人たちは「新宮の水源地」を共同で利用し、各家庭にも縦穴の井戸があったようです。オクゴ（奥の集落）の人たちは各家庭の縦穴・横穴の井戸や共同の水場を利用していたそうです。私たちはこのオクゴの井戸について詳しく調査しました。

#### <田村よし子さん>

よし子さんのお宅では、昭和28年に掘った縦穴の井戸があり、一年前（平成11年）にポンプが壊れるまで使用されていたそうです。

#### <山口貢さん>

貢さんのお宅には横穴の井戸があって、市水道ができるまで使われたそうです。井戸が枯れたときは「大池」という共同の水場を使っていたのですが、大池は市道ができたなら枯れてしまったそうです。貢さんには「大口の水源地」まで連れていってもらいました。

#### <山本鉄治さん>

このお宅には縦穴の井戸とわき水があり、鉄分の多い水が出たそうです。

#### <田村与吉さん、愛子さん>

田村さんのお宅のあたりは、1メートルぐらい掘るとすぐ水にあたって泥水になってしまうので、横穴の井戸を使っていました。井戸が枯れたときには「清水の池」からくんだそうです。

#### <西川公之さん>

このお宅には巨大な縦穴の井戸があり、ここの水は奥波見の他の井戸が枯れても、唯一枯れなかったそうです。私たちはその理由として、ここは水道（みずみち：水が良く出る場所）なのではないかと推測しました。他のお宅の横穴が全部ここを向いているのはそのせいではないでしょうか。

#### <田村嘉久芳さん>

こちらのお宅では今でも井戸水を利用していらっしゃいます。市水道は補助的にしか使わないそうです。

また、かつて使っていた横穴は現在、さつまいもなどの貯蔵庫になっていました。現在は共同の井戸がなくなって、水の使用を通じた家と家とのつながりがなくなったのは残念ですが、今も井戸を使っているお宅もあって、自然から水を取り入れているのがとても新鮮に感じました。



(今は役目を終えた「清水の池」)







発表会の様子



絵本の表紙

### 食事会&発表会

奥波見で過ごすのも今夜が最後、という7月17日の夕方には、恒例の食事会と調査の発表会が奥波見公民館で行われました。昼過ぎから奥波見の奥様方と、何人かの学生が心を込めて、(つまみ食いしながら)作った郷土料理の数々が食卓に並びました。今年は、予定のメニュー以外のものも思いつきで作ってしまうといういきおいの良さ。発表直前まで調査のまとめに追われていた学生達の心を慰めてくれました。もっとも、お手伝いしていた学生の中には、つまみ食いでお腹いっぱいになったむきもありましたが・・・。食事の後の発表会は、去年までより映像がたくさんあり、みなさんに楽しんでいただけたのではないかと思います。







### おわりに

冒頭でも述べましたように、毎年やってくる私たちを、今年もあたたかく迎えて下さったことに感謝しています。奥波見のみなさんは、学校では教えてくれないことを私たちに教えてくれる貴重な先生達です。私たちはその教えと知恵を忘れずに、これからの生活に活かしていきたいと思います。 来年も私たちの後輩と、おそらくおなじみのメンバーも何人か奥波見におじゃますると思いますが、どうかあたたかく迎えてやって下さい！